岐阜大学医学部附属病院 広報誌

うぶね

ubune

Take free
63

2026年10月発行

特集

女性のライフステージに寄り添う医療



- 専門医とひもとく からだ図鑑
- 管理栄養士のけんこう食卓
- 自宅でカンタン!健康体操
- Q&Aコラム ○○って何?

特集

SPECIAL FEATURE

女性のライフステージに寄り添う医療



女性の身体や心は、ライフステージの移り変わりとともに大きく変化します。岐阜大学医学部附属病院の産婦人科と乳腺外科では、最新の医療技術と専門性を備えながら、患者さん一人ひとりの人生に親身に寄り添う診療を行っています。
今回は、現場の最前線で活躍する3名の女性医師による鼎談をお届けします。



乳腺外科
大川 舞 先生
乳がんの早期診断から各種手術、化学療法、終末期ケアまで一貫した診療を担う。特に若年層の乳がん患者に対し、治療後の妊娠・出産の希望（妊孕性温存）やライフステージに配慮した治療支援に注力。

産婦人科
志賀 友美 先生
周産期診療をメインに、臨床遺伝専門医として出生前診断や遺伝カウンセリングを担当。妊娠前の「プレコンセプションケア」からハイリスクな妊娠・出産期まで、きめ細やかに応える医療を提供。

産婦人科
菊野 享子 先生
婦人科腫瘍専門医および内視鏡技術認定医として、子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がんなどの悪性腫瘍から、子宮内膜症をはじめとする良性疾患まで幅広く診療。低侵襲、先進治療にも積極的に取り組む。

── まずは、先生方が現在の診療科を選ばれたきっかけについて教えてください。

志賀先生　一番の理由は、純粋にお産が好きだったことです。単に病気や不調を治す治療にとどまらず、新しい命の誕生に立ち会い、ご家族の新しいスタートを直接支えられるところに大きな魅力を感じて志しました。

菊野先生　私は研修医の時に、手術で患者さんを治せる外科系の魅力と、救急疾患が多く迅速な判断・対応が求められる現場に惹かれて産婦人科を選びました。がん患者さんを5年ほど長期でフォローすることもありますが、再発なく順調に過ごされている方とは、診察の時に近況や日常の出来事についてお話ししたり、友達同士のような会話になることもあります。女性同士だからこそ共感し合える場面が多く、病気以外の些細なことも気軽に相談していただけるのがうれしいですね。





志賀先生　産婦人科はどうしてもプライベートでデリケートな悩みが多くなります。「女性の先生に話せてありがたかった」と言っていただける機会も多く、同じ女性として、力になれているのかなと感じるとうれしいですよね。

大川先生　私も志賀先生と同じで、患者さんから「女性医師でよかった」と言っていただける科であることや、手術を行う診療科で働きたかったことなどが、乳腺外科を志した理由です。乳腺外科は診断から治療、そして終末期まで一貫して一人の患者さんを診られる点や、乳がんという病気が身近であったことも決め手でした。

── ご自身の経験や立場が、患者さんへの共感や診療に生かされたと感じることはありますか？

菊野先生　内診の痛みや生理痛から、更年期特有のイライラや頭痛などの不調まで、同じ女性として経験することでより深く理解できるところもあると感じています。「この症状はこんなにつらいんだ」という実感、感覚として分かるため、できる限り、患者さんの気持ちに応えたいと考えています。

志賀先生　実際に経験したからこそ分かること、ありますよね。私も、出産を経験したことで、妊娠中の心身の不調や産後の育児の苦労など、患者さんの立場に立って考えやすくなったと思います。理解とまではいかないかもしれませんが、それでも産後の回診で患者さんとお話しする際も、自分が経験したことを重ねながら話を聞くことができるということを自身の産後に実感しました。

大川先生　若い乳がんの患者さんで「がんの治療も大切だけれど、将来の妊娠・出産も諦めたくない」というお気持ちを聞くことがあります。私自身もその切実な思いが、同じ女性としてよく分かりますので、治療方針を決める際も患者さんのお気持ちにしっかりと寄り添いながら一緒に考えていくよう心がけています。

── 大学病院としての強みや、他の診療科との連携について教えてください。

志賀先生　当院の大きな強みの一つに「がん生殖医療」があります。抗がん剤治療などによって卵巣機能が低下してしまう前に、受精卵や卵子を凍結保存するというものです。乳腺外科など他の科の主治医から紹介を受け、産婦人科が中心となってカウンセリングや意思決定支援を行っています。妊娠可能な年代の患者さんを診る全ての診療科と幅広く連携しているので、血液内科などで治療を受ける男性患者さんの精子凍結保存にも対応しています。

菊野先生　産婦人科では、外科や泌尿器科など他の診療科とも連携し、県内最多となる悪性腫瘍の手術を行っています。また、60～70代の女性に多い「骨盤臓器脱（子宮脱など）」に対しては、腹腔鏡を用いて骨盤内の臓器を支える手術など、新しい治療の選択肢も積極的に取り入れています。がん治療から、年齢とともに増える女性特有の疾患まで幅広く対応し、女性が高齢期になっても快適に生活できるよう、診療体制の充実に取り組んでいます。

── 妊娠前の健康管理である「プレコンセプションケア」や、若年層へのアプローチはいかがでしょうか？

志賀先生　「プレコンセプションケア」とは、将来妊娠を計画している方が、妊娠前に受けるケアやアドバイスのことです。妊娠可能な全ての女性にケアを提供することが理想ですが、当院のプレコンセプションケア外来では、持病のある方や過去に妊娠合併症を経験



された方など、より専門的な支援が必要な方を対象としています。

菊野先生　プレコンセプションケアの考え方を広げるならば、慢性化した生理痛などを我慢するのではなく、もっと気軽に受診してもらえたらと思っています。特に10代・20代の若い患者さんも相談しやすいよう、助産師外来を活用した取り組みを進めていきたいと考え、動き始めています。

志賀先生　「プレコンセプションケア」と聞くと少し難しく感じられるかもしれませんが、ケア自体は決して難しいことではないんですよね。適正体重の維持や禁煙、葉酸サプリの摂取など、日常の中でできる身近な体づくりのことなんです。事前にご自身の体を知り、日頃から備えておくことで、妊娠に対する不安を和らげるだけでなく、万が一の妊娠合併症の重症化を防ぐことにつながると考えています。

――若年層の乳がんにおける特有の課題や支援についても教えてください。

大川先生　乳がん検診は基本的に40歳からのため、20代・30代の若年層は自覚症状で見つかることが多く、遺伝性の割合も高くなります。また、5～10年に及ぶ内分泌療法中は妊娠ができないため、治療前に卵子や受精卵を保存する妊孕性（にんようせい）温存の説明が必須となります。手術においても乳房温存や再建を希望される方が多いため、ご希望に添えるよう丁寧にサポートしています。

――育児をしながら働かれている女性医師の先生も多い中、働きやすさという面で、昔と変わった点や環境整備についてはいかがですか？

志賀先生　医師数が増えたことに伴って「複数主治医制」が導入され、一人の医師に過度な負担がかからないシステムが整いました。産婦人科は女性医師が増え、私も含めて子育て中の人も多いです。子どもの急な発熱で保育園から呼び出しがあっても、自然にカバーし合える雰囲気があります。

菊野先生　私が働き始めた頃と比べると、現在は出産後もフルタイムで復帰するのが当たり前になりました。こうした意識の変化があるからこそ、若い医師もキャリアを諦めずに働き続けられる環境になっています。

大川先生　乳腺外科でも若手の女性医師が増えてきました。昔のように他科の手術と兼任するのではなく、専攻医のうちに必要な研修を経て、自分の専門分野に集中してキャリアを積める体制へと変わりつつあると感じています。

――最後に、お一人ずつ、読者の皆さんへのメッセージをお願いします。

大川先生　気になるところや自覚症状があれば、早めに受診していただくことが大切です。早期発見ができれば命にかかわるリスクも低く、若い方であれば妊娠の可能性を守るための対応も早くできますので、安心してご相談ください。

菊野先生　「おりものが多い」「生理周期が乱れる」など、「こんなことで受診していいのかな」と思うような小さな悩みでも、我慢せずにぜひ受診してください。それが、病気の早期発見や苦痛の解消につながる第一歩になると思います。

志賀先生　大学病院というとハードルが高く感じられるかもしれませんが、実際には若い医師も多く、患者さんのお話にしっかりと耳を傾けられる環境です。気負わずに、不安なことを気軽にご相談いただければと思います。

こころとからだに、もっと寄り添う。 －岐阜大学病院の産婦人科と乳腺外科－

産婦人科





産婦人科 教授　**磯部 真倫** 先生

県内トップクラスの専門医・認定医体制を整えている産婦人科。患者さんの体への負担を最小限に抑える高度な治療に力を入れています。当科の大きな強みは、高い技術を持つエキスパートが多数在籍していること。がん治療の専門家である婦人科腫瘍専門医が県内最多となる6名活躍しているほか、取得が難しいとされる内視鏡技術認定医が9名、ロボット技術認定医も3名います。子宮内膜症などの良性疾患はもちろんのこと、限られた施設でしか行うことができない悪性疾患に対する手術にも対応し、質の高い安全な手術を提供しています。当科では「患者さんに優しい医療を提供するためには、スタッフ自身の心が健やかであることが何より大切」という考えのもと、働きやすい環境づくりにも力を入れています。現在、24名中16名が女性医師であり、子育て中の医師も育休から復帰し、働いています。それぞれのライフスタイルに合わせた多様な働き方を尊重し、互いに助け合いの土壌が根付いています。それが結果として、患者さん一人ひとりに寄り添う、より温かく細やかなケアへつながっています。

乳腺外科





乳腺外科 教授　**二村 学** 先生

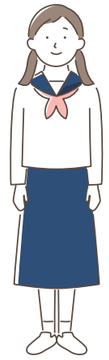
当院の乳腺外科では、乳がんを中心に、多種多様な乳腺疾患、腋窩（えきか）の悪性腫瘍に対して、男女問わず若い世代から高齢層までの幅広い患者さんのニーズに合わせた治療を提供しています。乳がん診療では、外科療法、薬物療法、放射線療法、検診や診断、AYA世代への支援、遺伝性乳がん、ゲノム医療、支持療法、緩和ケアなど、患者さんに寄り添った医療を目指しています。また、乳腺外科医だけでなく、形成外科医、放射線科医、産婦人科医、さらには薬剤師、看護師、遺伝カウンセラー、臨床心理士、治験コーディネーターなど多職種のプロフェッショナルとも連携し、患者さんをチームで総合的にサポートする診療体制を整えています。現在、関連病院を含む乳腺外科専門医は22名おり、うち9名は女性です。地域の中核病院を中心に活躍しており、女性患者さんから好評を得ています。さらに、乳腺外科を目指す専攻医男女5名が「岐阜大学乳腺外科乳腺専門研修カリキュラム」に参加しており、次世代を担う乳腺外科医の成長を楽しみにしています。

女性のライフステージに合わせた　岐阜大学病院の最新治療と専門ケア

プレコンセプションケア外来

安心して妊娠を迎えるための、未来に向けた体づくりを一緒に

「プレコンセプションケア」とは、将来妊娠を計画している方、妊娠に対して不安をお持ちの方が、妊娠前に受けるケアやアドバイスのこと。対象となるのは、妊娠可能な年齢の女性で、慢性疾患や精神疾患を有する方、がんサバイバーの方、不妊症・不育症の方、過去の妊娠で合併症の既往がある方など。外来では、患者さんが希望する内容に合わせて、事前の情報提供やアドバイスを行います。例えば、持病で薬を飲んでいる場合、その薬が赤ちゃんにどのような影響を与えるか、どのように計画をしていくと良いか、など、患者さんによってさまざまなケアの形があります。また、当院で出産し、妊娠糖尿病や妊娠高血圧を経験された方を対象に、出産後の「インター・アフターコンセプションケア」にも取り組み、妊娠をきっかけとした長期的な健康管理をサポートしています。事前の準備から産後の長期的な健康まで、安心してライフステージを歩めるよう一貫したケアを提供しています。



思春期

初経を迎えるなど、心身が大人の女性へと変化する大切な時期です。



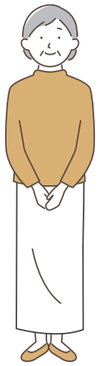
妊娠出産期

妊娠・出産や育児を通して、心身や暮らしの環境が大きく変化します。



更年期

閉経前後の女性ホルモンの変化に伴い、心身のゆらぎや不調に直面。



高齢期

加齢に伴う身体の変化が増え、より丁寧なケアが必要となる時期です。

婦人科悪性腫瘍に対する治療

専門医の技術とチーム医療であらゆるがん患者さんを支える

当院は「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、外陰がん、膣がんといった婦人科悪性腫瘍の高度な診療を行っています。指導医や専門医をはじめとするプロフェッショナルが多数在籍し、ガイドラインに沿った標準治療を軸に、放射線治療や抗がん剤を組み合わせた集学的治療から、がん遺伝子パネル検査を活用した個別化治療まで幅広い選択肢を提供。2025年度のがんゲノム遺伝子パネル検査数は年間175例と県内最多の実績を誇ります。また、最新の治療法確立を目指した臨床試験へも積極的に参加しています。さらに若い世代の患者さんに対しては、抗がん剤や放射線治療による将来の妊娠への影響に配慮し、治療前に受精卵や卵子を凍結保存する「がん生殖外来」を通じて、がん治療と将来の妊娠の希望をともに支える意思決定支援にも注力しています。高度な医療技術と多職種チームの連携により、患者さん一人ひとりのライフステージに優しく寄り添う最先端のがん診療を届けています。

出生前遺伝学的検査

妊娠中の不安に寄り添い、最初から最後までサポート

母体血を用いた「出生前遺伝学的検査（NIPT）」は、母体の採血のみで赤ちゃんの3つの染色体の数的異常（21トリソミー、18トリソミー、13トリソミー）の可能性を調べる検査です。羊水検査のようにお腹に針を刺さないため、非侵襲（しんしゅう）的で高精度の検査が可能です。対象は妊娠9週0日以降の妊婦さんで、高年齢の方や、事前の超音波検査などで異常の可能性が示唆された方、過去に染色体異常のお子さんを妊娠した既往のある方など。このNIPTは採血だけで体の負担が少ない一方で、非確定的検査であるため、万が一、結果が陽性でも100％確定ではありません。近年、十分な説明やフォローなしに結果だけを通知する無認可施設が増え、妊婦さんが不安なままその後の判断を迷ってしまうケースが問題になっています。その点、認可施設である当院では、臨床遺伝専門医と遺伝カウンセラーがチームを組んで、検査前も検査後も丁寧なカウンセリングを行います。

婦人科低侵襲手術

傷口も痛みも最小限　高度な技術で安心の治療

体への負担をできる限り抑え、早期の復帰をかなえる治療として、当科では腹腔鏡手術、ロボット手術、子宮鏡手術などの「低侵襲（ていしんしゅう）手術（患者さんの負担の少ない手術）」を推進しています。子宮筋腫などの良性疾患から子宮頸がん、子宮体がんなどの悪性腫瘍まで幅広い症例に対応しており、年間実施件数は約360例と、県内でもトップクラスの実績を誇ります。また、低侵襲で悪性腫瘍の手術を行える医療機関は限られていますが、当科では悪性腫瘍に対する低侵襲手術を県内で最も多く実施しています。加えて、加齢によって生じる骨盤臓器脱（子宮脱など）に対して、医療用の特殊なネットを用いて臓器を支える腹腔鏡手術（LSC）を積極的に行なっています。当科には多くの女性医師が在籍し、診察だけでなく手術の執刀までできる体制があることも安心感につながっています。傷口を小さく、痛みを少なくするために、患者さんの思いに応え、体に優しい高度医療を提供しています。

vol.1

専門医とひもとく 腸編

からだ図鑑

KARADA ZUKAN

知っているようで知らない人体のしくみや働きについて、
先生と一緒に学ぶ新コーナー。
初回は「腸活」でおなじみの「腸」にフォーカスします！



消化器内科
地域腫瘍学講座 特任助教
大西 祥代 先生

POINT 1 腸のはたらき

小腸の役割

消化と吸収をしているよ！

食べたものの消化と、体への栄養吸収を行います。胃からつながる十二指腸、空腸、回腸の3つの部位に分けられ、大人の小腸の長さは約6〜7メートルにもなる、体内で最も長い臓器です。



大腸の役割

水分を吸収して、便を作っているよ！

水分や電解質を吸収しながら便の形を作ります。腸内細菌叢（腸内細菌の集まり）が食べたものを発酵させて短鎖脂肪酸を作り、それが大腸の粘膜を動かす、大切なエネルギー源になります。



意外と知らない!? 臓器のヒミツ

“腸活万能フード”はありません！過剰摂取はやめてバランスの良い食事を。

「これさえ食べれば腸が元気になる！」という、医学的に根拠のある特定の食べ物は、実は存在しません。食物繊維を多く含む食品や発酵食品、プロバイオティクス（善玉菌など）などは確かに体に良いとされますが、摂りすぎると腸内細菌が発酵する際にガスが大量に発生し、逆にお腹の張りや膨満感の原因になることも。体に良いはずの食べ物も、それだけを過剰に摂取するのはあまりおすすめしません。腸内環境や、効果の出方にはかなり個人差がありますので、情報を過信して特定のものばかり食べず、自分に合った適量とバランスの良い食事を心がけましょう。



POINT 2 すこやかな腸のための生活習慣

腸の健康は、毎日の過ごし方から！

体を動かして蠕動運動を促す

腸の働き（蠕動運動）は、体を動かすことで活発になります。散歩やお腹のマッサージなど、できることから。



適度な睡眠で免疫を整える

睡眠不足はもちろん、寝だめなどの過度な睡眠も避け、日々適切な睡眠をとることで体の免疫を整えましょう。



便秘薬の自己判断に注意

強い刺激で出すタイプの便秘薬を長期間使い続けると、慣れてしまって自力で排便しにくくなる恐れがあります。



POINT 3 見逃さないで！腸からのSOSサイン

☑ 血便・黒い便

赤い血便（腸からの出血）や、真っ黒い便（胃や上部消化管からの出血）が出た場合は、すぐに受診を。

☑ 長引く＆繰り返す下痢

1週間〜10日ほど続く下痢や、痛みを伴う下痢は、潰瘍性大腸炎やクローン病などの可能性もあります。

岐阜大学病院でできること

県内でも貴重な「小腸カプセル内視鏡」など、安心の検査＆治療体制

当院の大きな強みのひとつが、県内でも限られた施設でしか受けられない「小腸カプセル内視鏡」です。飴玉サイズほどのカプセルをゴクンと飲むだけで、これまで検査が難しかった小腸の内部を調べることができます。さらに、万が一異常が見つかった場合も、専門のカメラ（小腸内視鏡）を用いて治療まで一貫して行える体制を整えています。腸の病気は、気づかないうちに進行してしまうケースが少なくありません。だからこそ大切なのが、大腸がんの早期発見につながる「便潜血検査」です。自覚症状がなくても、定期的に検査を受けましょう。

定期的な検診が、未来の健康を守る第一歩です！



管理栄養士の けんこう食卓

岐阜大学医学部附属病院の管理栄養士がおすすめする栄養レシピをご紹介。

食物繊維で冬の"腸活"対策



今回の食材

きのこ



豊かな香りと食感が魅力のきのこは、腸を刺激し、蠕動(ぜんどう)運動を促進する働きのある不溶性食物繊維と、腸内環境を整える水溶性食物繊維の2種類をバランスよく含んでいます。さらに、熱に強い納豆菌を持つ納豆は、きのこと相性の良い発酵食品。どちらも手軽に取り入れやすい食材なので、おいしく味わいながら腸から健康を目指しましょう。

きのこの旨みで おいしく腸活

3種のきのこと納豆の和風パスタ

管理栄養士
堀(ほり) 文乃(あやの)さん



エネルギー 496 kcal（1人分）

材料（2人分）

- パスタ …… 2束（200g）
- しめじ …… 70g
- 舞茸 …… 70g
- マッシュルーム …… 5個
- にんにく …… 1片
- 大葉 …… 5枚
- 納豆（付属のタレ）… 1パック
- バター …… 10g
- ◆酒 …… 大さじ1と1/2
- ◆めんつゆ（3倍濃縮）… 大さじ1
- ◆しょうゆ …… 小さじ1
- ◆水 …… 150ml
- ◆塩 …… 適量
- ◆コショウ …… 適量

作り方

❶パスタは表示より30秒ほど短くゆでて、湯を切る。
❷しめじと舞茸は石づきをとり、手で適当な大きさになるように割く。マッシュルームは3mm幅に切る。大葉は千切り、にんにくはみじん切りにしておく。
❸フライパンを中火に熱してバターをひき、にんにくを香りが立つまで炒めたら、しめじ、舞茸、マッシュルームを加える。
❹◆を順に加えて、きのこ類がしんなりするまで中火のまま炒める。
❺④に、①のパスタを入れて混ぜ合わせる。
❻納豆に付属のタレを入れて混ぜ合わせる。
❼⑤のパスタを皿に盛り付け、⑥の納豆をかけ、大葉をのせたら完成。

栄養成分（1人分）	たんぱく質	脂質	炭水化物	食塩相当量	食物繊維
	18.7g	8.4g	83.3g	1.8g	7.3g

Recipe 2 りんごの寒天テリーヌ



りんご本来の甘さを味わう低カロリーな寒天スイーツ

管理栄養士
野田(のだ) 千咲子(ちさこ)さん

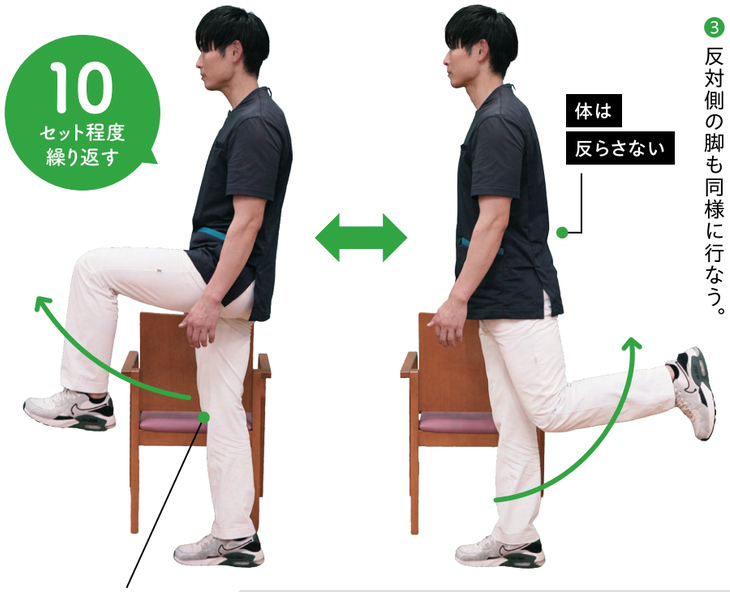
レシピはコチラから！

自宅でカンタン！ 健康体操

今回のテーマ

ふらつき防止！ 股関節屈伸運動

歩くためには、さまざまな筋肉が必要です。ぐらつき、ふらつきを防止して安全に歩くためには、**足の根元（股関節周辺）の筋肉がとても大切**です。ご自宅のテーブルや手すりを使い、安全に足腰の筋力を鍛える運動をご紹介します。



❶片方の膝を軽く曲げて浮かせる。
❷足の根元から前後にゆっくり振るように、股関節を前後に動かす。
❸反対側の脚も同様に行なう。

教えてくれたのは
山田(やまだ) 智貴(ともき)さん
理学療法士

基本姿勢

壁やテーブル、手すりにしっかり手を添えて立ちます。

POINT 体幹がブレないように、股関節をしっかり動かすイメージで。手すりなどを使い、ふらつかないように実施しましょう。

＊痛みや痺れが出現もしくは悪化するようなことがあれば体操は中止し、医師や理学療法士に相談しましょう。

Q&Aコラム ○○って何？



今回のギモンは…

冬の"隠れ脱水"って何？



A 暖房による乾燥と「渇きの鈍さ」が原因。喉が渇く前にこまめな水分補給を心がけて。

冬は汗をかきにくいため油断しがちですが、実は脱水症状を起こしやすい季節。暖房による乾燥で、気づかないうちに皮膚や呼吸から水分が失われるうえに、寒さのせいで喉の渇きを感じにくくなり、水分を摂る機会自体が減ってしまいます。特に高齢者は渇きを自覚しづらいため、注意が必要。「尿の色が濃い」「口が渇く」「体がだるい」といった症状が現れたら、それは脱水のサインかもしれません。日常的にこまめな水分補給を心がけましょう。

教えてくれたのは
森(もり) 一郎(いちろう)先生
総合診療科・総合内科学分野 准教授

岐阜大学医学部附属病院
病院広報誌
うぶね vol.63
2026年10月発行／発行 岐阜大学医学部附属病院広報委員会 〒501-1194 岐阜市柳戸1-1
【TEL】058-230-6000(代表)【HP】https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/【E-mail】hwebmstr@t.gifu-u.ac.jp



通院サポートアプリのご案内

スマホで通院を便利に！
通院サポートアプリ「HOPE LifeMark-コンシェルジュ」のご案内です。



アプリ受付窓口 | 登録のご相談はこちらへ　場所：病院1階総合診療部　時間：平日8:30～17:00

HOPE LifeMark-コンシェルジュ
FUJITSU LIMITED

▼iPhone App Store からダウンロード

▼Android GET IT ON Google Play

STAFF募集

当院では現在、
下記スタッフを募集しております。

ドクタークラーク
（医療事務作業補助者）
※医師の事務サポート

ナースアシスタント
（看護補助者）

その他職種も募集中！
詳しくはこちら！▶
岐阜大学病院HP 採用情報

THANKS FOR THE DONATION

ご寄附のお願い



岐阜大学医学部附属病院では、
教育・研究・医療の推進のため、寄附金を受け入れています。
皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お申し込み方法

「寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、経営管理課管理係までご提出ください。
お申し込みいただいた方に、振込依頼書をお送りしますので、全国の金融機関の窓口よりお振込みをお願い致します。
※振込手数料は当院が負担します

寄附金申込書ダウンロード

お問合せ　岐阜大学医学部附属病院 経営管理課管理係
☎ 058-230-6011　✉ hpkanri@t.gifu-u.ac.jp

読者アンケートにご協力をお願いします▶

よりよい誌面作成のため、ぜひ皆さまの声をお聞かせください。
アンケートは折込のハガキまたは右のQRコードからもご回答いただけます。

「うぶね」バックナンバーは病院ホームページで公開中です▶

Back number
https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/guide/ubune.html　岐大病院 うぶね